

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	主催団体	行事形式	行事名	開催日
G003	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会	3.ICTセミナー等	第28回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム	7/4~7/6
開催場所		行事参加者数	Webサイト・URL	
メイン会場:和歌山県立情報交流センター 「Big・U」 サブ会場:ホテルシーモア		583名	https://sccs-jp.org/symposium28/	
行事実施概要・アピール等				

テーマ： 激変する環境、複雑化するサイバー犯罪にどう立ち向かうのか？

1.趣旨

閉域網に守られて安全だったはずの工場や病院などがコロナ禍で加速したクラウド化により見えないところでインターネットと接点をもち、ランサムウェアなどによるサイバー攻撃の被害を受けている。自治体情報セキュリティクラウドと3層の分離・分割で守られてきた自治体では、 α モデルから β 、 β' モデルへの移行や、LGWANからのインターネット接続へという変化がおきている。また現場部門主体のDXによるクラウド活用の副作用として情報システムがシャドウIT化し、情報システム部門のコントロールの外に置かれてしまうという事態が発生している。さらに生成AIの登場は業務の効率化に資する一方、思いがけない情報漏洩、フェイク情報の生成、詐欺行為への活用を始めとする「サイバー犯罪の効率化」という大きな環境の変化をもたらした。今回のシンポジウムではこのような環境の激変に伴う、サイバー犯罪の複雑化にどう立ち向かうのか、その現状と将来について各分野の専門家からご意見、ご提案をいただいた。

また、サブ会場では分野別BOFやセキュリティ夜話等を開催し、参加者と議論をかわした。

2.第19回「情報危機管理コンテスト」

高度な情報セキュリティに係るインシデントの対応技術を有する若者を表彰することにより、若者の情報セキュリティに対する関心を高め次代を担う人材の発掘・育成に寄与することを目的として実施した。第二次予選通過5チームが決勝戦に臨み、顧客に扮したスタッフから次々と出される苦情やトラブルに、各チームは、日ごろの成果を試すとともに実践的なインシデントへの対応力を競い合った。結果は以下のとおり。

- ・経済産業大臣賞 名古屋工業大学 P01TERGEIST
- ・文部科学大臣賞 静岡大学 itsawayaka
- ・インスピレーション賞 関西大学 kobaism
- ・パッション賞 立命館大学 Rist
- ・クール&ワイズ賞 名古屋工業大学 GH05TBUSTERS
- ・みずほリサーチ&テクノロジーズ賞 静岡大学 itsawayaka
- ・AWS賞 名古屋工業大学 GH05TBUSTERS
- ・JPCERT/CC賞 齊藤 遼太さん(静岡大学)

3.その他

- ①企業展示については、28社からセキュリティ関連機器やソフトウェアの出展をいただき、研修室1に14社、メイン会場入り口付近に14社のブースを設置し、多くのシンポジウム参加者に展示商品をご覧いただいた。
- ②第16回目の開催となる「セキュリティ道場in白浜」は、警察関係者限定の24名が参加し、実際に発生した、サイバー攻撃による情報セキュリティインシデントの復旧プロセス事例をもとに机上演習を行い、警察職員としてできる早期復旧への支援について理解を深めた。また、ランサムウェア事件捜査を担当した警察職員による講演も行った。



開会の様子



情報危機管理コンテストの様子



講演の様子



講演の様子